

# 日本ペスタロッチャー・フレーベル学会

## 第29回大会プログラム

2011年 9月10日(土)・11日(日)

常磐会学園大学

### I 日程

9月10日(土)		9月11日(日)	
全国理事会	10:30~12:00	受付開始	9:00
受付開始	12:30	自由研究発表	9:30~12:45
自由研究発表	13:00~16:15	昼休憩	12:45~13:30
総会	16:45~17:30	シンポジウム	13:30~16:00
懇親会	18:00~20:00		

### II 会場・発表時間

全国理事会	会議室
理事控え室	資料室
自由研究発表	821 講義室
会員控え室	811 講義室
総会・シンポジウム	ホール
懇親会	学生食堂

【発表時間】自由研究発表は1人25分、質疑応答5分です。

### III 大会参加費・懇親会費

大会参加費は、一般会員4,000円、学生会員2,000円、懇親会費は、一律5,000円です。

大会当日、受付会場にてお支払い下さい。

### IV 昼食について

大変恐縮ではございますが、大学周辺のコンビニエンスストア等にて各自ご準備くださいますようお願い申し上げます。

### V 大会事務局

日本ペスタロッチャー・フレーベル学会 第29回大会実行委員会

〒547-0021 大阪市平野区喜連東1丁目4-12 常磐会学園大学 莊司泰弘研究室内

(E-mail: [shoji@sftokiwakai.ac.jp](mailto:shoji@sftokiwakai.ac.jp) 電話: 06-4302-8880 (代表))

# 第1日 9月10日 (土)

<自由研究発表> 821 講義室

司会

鳥光美緒子 (中央大学)

乙訓 稔 (実践女子大学)

13:00～13:30

ペスタロッチー教育思想における「共同体」構想の再検討

福田 敦志 (大阪教育大学)

13:30～14:00

ペスタロッチ主義の展開と変容

水戸部 光則

(日本大学文理学部人文科学研究所研究員)

14:00～14:30

19世紀末ドイツにおけるペスタロッチ教育思想の影響

津田 純子 (新潟大学)

14:30～14:45 < 休憩 >

14:45～15:15

ペスタロッチーの貧児・孤児教育をめぐって

光田 尚美 (関西福祉大学)

15:15～15:45

城戸幡太郎の「児童保護」思想

—15年戦争期を中心に—

浅野 俊和 (中部学院大学)

15:45～16:15 総括討議

< 休憩 >

<総会> ホール

16:45～17:30

< 休憩 ・ 会場移動 >

<懇親会> 学生食堂

18:00～20:00

## 第2日 9月11日(日)

<自由研究発表> 821 講義室

司会 宍戸 健夫 (同朋大学)  
湯川嘉津美 (上智大学)

9:30~10:00

「幼児の教育」における絵本の歴史Ⅱ

—1948年の「保育要領」から1956年の「幼稚園教育要領」まで—

細川 七恵 (関西学院大学大学院)

10:00~10:30

『幼児の教育』における遊戯論の展開

澤田 真弓 (兵庫教育大学連合大学院)

10:30~11:00

フレーベルの自然哲学理解

松村 納央子 (山口学芸大学)

11:00~11:15 < 休憩 >

11:15~11:45

フレーベルにおける「歩く」ことの教育人間学的考察

—予感との連関において—

田岡 由美子 (龍谷大学短期大学部)

11:45~12:15 総括討議

12:15~13:30 < 昼休憩 >

<公開シンポジウム> ホール

13:30~16:00

提案者 岸 信行 (中央大学)  
市毛愛子 (名古屋経済大学短期大学部)  
戸江茂博 (近大姫路大学)  
司会者 浜田 栄夫 (山陽学園大学)  
酒井 玲子 (北星学園)

## 公開シンポジウム

題 目 今、私たちは教育者として何ができるか

～東日本大震災の経験をふまえて～

会 場 常磐会学園大学 ホール

日 時 9月11日(日) 13:30～16:00

提案者 岸 信行 (中央大学)  
市毛 愛子 (名古屋経済大学短期大学部)  
戸江 茂博 (近大姫路大学)

司会者 浜田 栄夫 (山陽学園大学)  
酒井 玲子 (北星学園)

### <シンポジウム開催の趣旨>

2011年3月11日、東北地方をおそった大地震は、未曾有の被害をもたらした。多くの人々の生命財産が失われ、街が壊滅状態になった。福島原子力発電所によってもたらされた放射能の恐怖は、1945年8月6日の広島、9日の長崎の惨状をよみがえらせた。住むところや仕事を失った大人たちの問題も大きい。ここで親を失った子どもたちも多いことに、思いをはせなければならぬだろう。このような現実を前にして、私たち教育者・教育学者は何ができるだろうか。このシンポジウムでは、阪神淡路大震災を経験された方々を招いて、議論を深めていきたいと考える。

思い起こせば、ペスタロッチーもフレーベルも、戦争や飢饉によって住むところを追われ、親を失った子どもたちを育てることから教育実践を始めていた。彼らの思索に立ち返り、人間教育の原点から、今日教育者・教育学者ができることについて考えてみたい。また、実際に阪神淡路大震災を経験され、厳しい状況の中から復興を遂げられてきた教育者・教育学者の言葉に耳を傾け、私たちがなすべきことについて考えてみたい。

本シンポジウムは、ペスタロッチー・フレーベルの教育思想と現代的課題とを結びつける意味でも、有意義な議論になると期待している。